

平成18年度 第3回帯広市総合計画策定審議会 議事要領

1. 日 時 平成18年9月15日(金) 10:00～

2. 場 所 市役所本庁舎4階会議室

3. 議事概要

報告事項 (1) まちづくり通信2006について、事務局から説明

政策・施策評価、まちづくり通信の説明について

質問・意見

【委員】この報告書の内容を市民にどう伝えていくか、手法は大事なことで、概要版をまとめたり、市民が訪れる場所に置くなどの工夫が必要と思うが。

【事務局】コミセン等に置く予定である。また、今年から重要な政策、財政状況等について、市民にわかりやすくお知らせする政策広報紙を通常の広報紙とは別刷り版として、全戸に配布する予定であり、その中でまちづくり通信の内容をコンパクトにまとめ、掲載する予定。

【会長】政策・施策評価システムを今後どの様にして改善していくのか。

【事務局】現在の総合計画が、評価を前提とした作りになっていないことから、評価基準の設定方法や、その基準を適用する政策のまとまりの構成について、次期総合計画の策定作業の中で考えていかなければならない。

【会長】施策の単位をどうしたら評価とマッチするのか。くくりの大きさを含め厳しい課題であると思う。また、ウエイト設定など裁量度を増すことは必ずしもプラスにはならない。評価の

実施結果を自ら振り返り、システムの改善を進めてほしい。

【委員】意向調査は、議員や審議会委員等、対象を絞った調査も行うことで、市民全体の調査による傾向との違いを確認できるのではないかと

【事務局】今まで議員、審議会委員等への意向調査はしていない。

【会長】意向調査を、一般市民を対象として行うのはよいが、意向調査も審議会委員や議員等にも行うことで、また違ったものが見えてくるのではないかと。

【事務局】市民意向調査の項目は漠然とした形で聞いている。次期総合計画で、それぞれの政策・施策を計画するときには、もう少し細かく調査をする必要がある。

【会長】市民意向の調査をするというのは、指標を評価する上でも大事だということを認識しないといけない。

報告事項 (2) 市民意向調査について、事務局から説明

市民意向調査最終報告の説明について

質問・意見

【委員】散布図で縦横に線が入っているがこの意味合いは。

【事務局】50項目の設問を9区分に区分分けをしており、どのカテゴリーにあてはまるかというものを現している。

【委員】道外からこの地に憧れてきた人が、数ヶ月で住みにくいと言い、離れていく人もいる。

【会 長】年代や居住年数や男女別等で定住意識に差があるのかもしれない。解析してみてもどうか。

【事務局】クロス集計を行い、傾向がある出るものがないかやってみたい。

【会 長】少数意見の取り扱い方法も重要ではないか。

【委 員】統計データとしては、一定の基準で調査することが必要。特定意見については、市民全体の考え方を把握する調査とは別にペーパー等で残しておくとい。

【会 長】統計的に毎年しっかりと分析していくことが大切。回答者の属性を上手に組み合わせ、特徴をつかむ作業が必要。

【事務局】意向調査結果については、今後、より細かい部分まで目配りをしながら整理し、様々な機会に活用していきたい。

【委 員】市民意向調査の結果がまちづくり通信にどう反映されているのか。まちづくり通信の「施策の実施状況の欄」で、「アスタリスク(*)がついている施策は今後重要すべき施策である」という説明があったが、市民意向調査の重要度とどう関係しているのか。

【事務局】まちづくり通信に付いているアスタリスク(*)は、政策の推進に向け、今後重視すべき施策を表したもので、市民意向調査の重要度とは異なる。

報告事項(3)スケジュールについて、事務局から説明

今後のスケジュールの説明について

質問・意見

【委員】現在、市役所内で次期総合計画の策定準備の検討をしているという、いろいろなプロジェクトチームの話を傍聴することは可能か。

【事務局】審議会など制度的な会合は、できる限りオープンにしていくべきだが、プロジェクトは内部の検討作業の場なので、審議会委員とプロジェクトメンバーの意見交換の場など検討したい。

以上。